

第 1 章

研究の概要

- I 背景と目的
- II 方法
- III 研究の経過

I 背景と目的

言語障害教育は、言語障害特別支援学級及び通級指導教室^{注)}における教育を中心に展開されてきた。したがって、その対象である構音障害、吃音、及び言語発達の遅れのある子どもへの指導・支援の在り方については、通級指導教室等における個別的な対応を中心として構築されてきた。これまでに言語症状の改善や言語力の伸張、自己の言語障害の状態の認識・理解や受容等の観点から指導・支援に関する研究が進められてきており、国立特別支援教育総合研究所においては、これらの研究成果を概観しつつ通級指導教室における事例研究を進め、指導・支援の内容・方法等について、言語障害教育担当者の日々の実践に資するガイドブックとして整理したところである(国立特別支援教育総合研究所, 2010)。

一方、言語障害のある子どもの主な学習・生活の場である通常の学級に着目した研究・報告はこれまでのところあまり見られない。多くの時間を通常の学級で過ごすことからすれば、通常の学級における子どもの状況を踏まえ、そこで生じている課題や困難さにも目を向ける必要があると思われる。言語・コミュニケーションの基礎が話し手と聞き手の二者関係にあることからすれば、個別の場で、一対一対応の中で言語障害のある子どもへの指導・支援がなされることの意義は大きい。通常の学級の中でどんな指導・支援ができるのか、子どもの通常の学級での学習・生活上の課題に対して通級担当者は何ができるのか、こうした観点から検討していくことも重要なことと考えられる。

このような状況に鑑み、本研究は言語障害のある子どもの通常の学級における学習・生活を円滑にするための知見・方法を検討・整理し、教育現場に提供することを目的とする。したがって、本研究では、構音障害、吃音、及び言語発達の遅れのある子どもの通常の学級での生活における困難さや、そこでの障害特性に応じた指導・支援の在り方の検討、通常の学級担任及び通級担当者がそれぞれの立場でできうることの検討を行う。

通級による指導の実践を進めていく上では、通常の学級担任と通級担当者間で種々の連絡調整が必要であり、事例の状況等による濃淡はあるが両者間の連携がなされている実態がある。本研究ではこの点に着目し、上記の目的に対し通常の学級と通級指導教室の連携を切り口に接近するものである。

注) 本研究において「通級指導教室」は、言語障害を対象とする通級指導教室を指す。通級指導教室を担当する教員については「通級担当者」と表記する。

また、通級指導教室について、言語障害のある子どもが通う教室、言語障害のある子どもが指導を受ける教室等、「言語障害のある子どものための教室」の意味を強調して記述する場合には「ことばの教室」の語を用い、担当する教員については「ことばの教室担当者」とする。さらに、より広く言語障害教育の文脈で表記する場合は「言語障害教育担当者」を用いる。

文献

国立特別支援教育総合研究所(2010). 言語障害教育における指導の内容・方法・評価に関する研究—言語障害教育実践ガイドブックの作成に向けて—. 研究成果報告書.

Ⅱ 方法

上記の目的に向け、本研究は、実践報告を中心とした「文献研究」、アンケートや聞き取り、各教室等からの実践資料の提供、研究大会参加や教室訪問による「資料収集」、研究協力機関や研究協力者の所属機関における「実践研究」の三つを柱として実施する。

これらの検討を進める上で、研究代表者、研究分担者、研究研修員による所内定例会、及び研究協力者、研究協力機関、研究パートナーも含めた研究協議会を開催し、進捗状況に合わせて協議を行う。

以上を総合的に考察し、知見を整理する。

1. 文献研究

言語障害教育に関する実践報告・研究における通常の学級を視野に入れた取組の動向を以下の研究雑誌等から展望し、知見を整理する。

- ・全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会及び地区大会の要項、報告書等
- ・日本特殊教育学会大会発表論文集の言語障害教育領域の発表論文
- ・特殊教育学研究、コミュニケーション障害学、聴覚言語障害、等の学術雑誌
- ・各大学紀要、各地のことばの教室紀要

2. 資料収集

(1) 通常の学級と通級指導教室の連携の実態

現在、全国各地において、通常の学級と通級指導教室がどのように連携しているか、連携の全体的傾向、方法、及び内容について、本研究所の調査研究として実施した「平成23年度全国難聴・言語障害学級及び通級指導教室実態調査」のうち、通常の学級と通級指導教室の連携に関する設問への回答を資料として、分析・検討する。

(2) 通常の学級担任が実施しやすい配慮について

通常の学級担任にとって負担が少なく、実施可能な配慮事項の提言に向け、言語障害のある子どもに必要とされる配慮事項を文献及び通級担当者への調査により検討・整理し、それらの通常の学級における実施しやすさについて、通常の学級担任に対する調査を行い分析・検討する。

(3) 言語障害のある子どもが通常の学級で感じる困難さ

通級担当者が子どもとの実践の中で把握している、子どもの通常の学級での様子、困っていること等について、通級担当者から収集し、検討・整理する。

(4) 通常の学級と通級指導教室の連携に関する知見

各地の通級指導教室からの実践資料の提供、研究協力者による言語障害教育研究・行政・教員研修の観点からの資料及び知見の提供、研究大会への参加、及び教室訪問を通して、連携を進めていく上での知見を収集し、検討・整理する。

3. 実践研究

研究協力機関及び研究協力者と研究代表者及び研究分担者が協働し、通常の学級における学習・生活を円滑にするための取組を進め、実践的検討を行う。これらは、言語障害の

ある子どもを通常の学級担任につなぐ、言語障害のある子どもの負担感を軽減する、言語障害のある子どもと通常の学級の子どもをつなぐ、通級指導教室やそこに通級する子どものことを知ってもらう等の取組である。

研究代表者及び研究分担者は、研究協力機関及び研究協力者と定期的に連絡・協議し、経過、成果、課題等を検討する。

所内定例会や研究協議会において進捗状況の報告、議論を行う。

以上の本研究の枠組みを図1に示す。

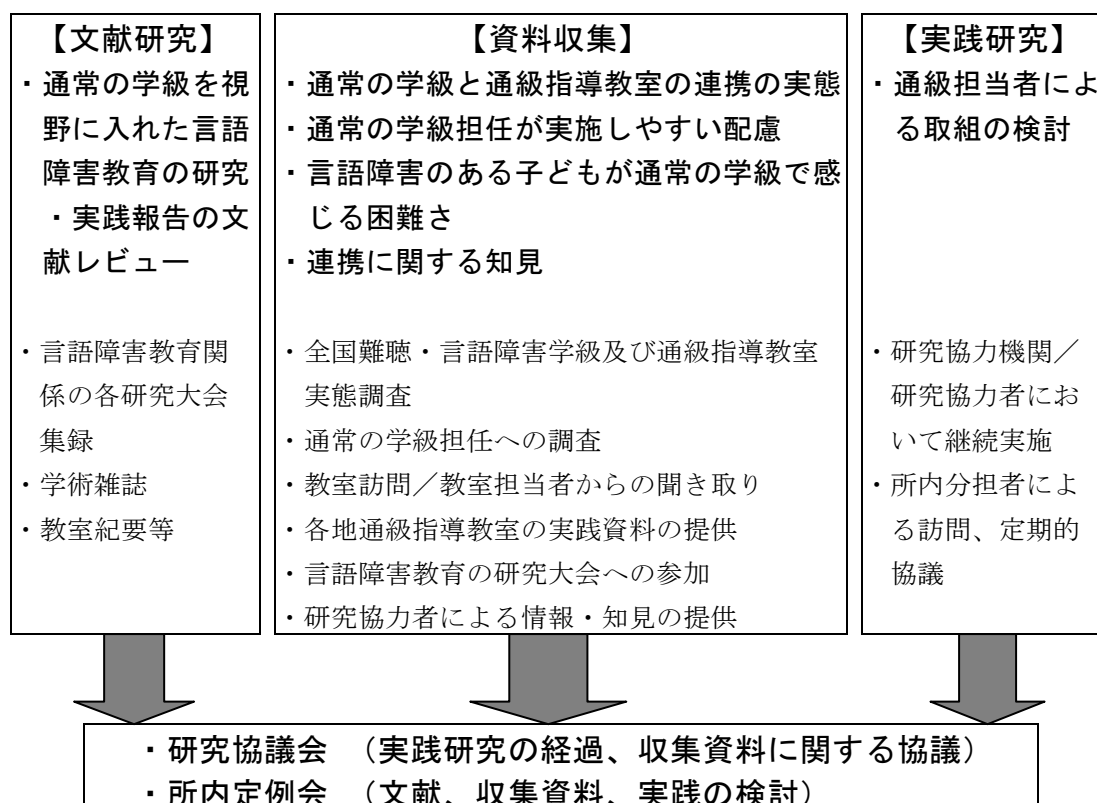


図1 本研究における方法の枠組み

本研究の研究体制は巻末に示すが、研究協力者は通級担当者、及び言語障害教育に関する研究、教員研修、教育行政に携わる学識経験者等である。通級担当者については、言語障害教育の経験が豊富で地域のリーダー的存在として活躍している教員、及び通常の学級担任としての実践経験が豊富な教員に依頼した。

研究協力機関は通級指導教室も含め特別な支援を必要とする子どもへの校内体制が充実している小学校に依頼した。

平成23年度には、本研究所の特別支援教育研究研修員制度にもとづき、東京都小平市立小平第二小学校の三木信子氏が研究研修員として参画された。本研究において三木氏には、所内定例会及び研究協議会における議論に加わっていただいたほか、主に通常の学級担任が行う配慮についての検討を担当いただいた。その成果は本報告書の本文に反映されているが、詳細は研究研修員の取組として、資料の位置づけで巻末に掲載した。

また、本研究では千葉市立あやめ台小学校を研究パートナーとした。千葉市立あやめ台小学校の通級指導教室では、通常の学級担任との連携のもと、吃音のある子どもが吃音や自分自身と向き合っていくための取組について実践的な検討を進めている。この取組は吃音のある子どもにとって通常の学級での生活を円滑にすることにつながるもので、本研究の趣旨にも合致するものである。同校通級指導教室担当者の渡邊美穂氏には、研究協議会への参加とともに、研究に関連する話題提供と議論を依頼した。本研究報告書においては千葉市立あやめ台小学校のいくつかの取組の中から、どもりカルタの作成とそれを用いた実践を取り上げ、資料として巻末に掲載した。

Ⅲ 研究の経過

1. 平成22年度

- ・年間を通して所内定例会を開催し、研究の進捗状況を確認し、研究内容を協議した。
- ・文献研究及び、資料収集のうち各地の通級指導教室の実践資料の収集、通級担当者からの聞き取りを開始した。
- ・通級担当者からの聞き取りによる、子どもが通常の学級で感じている困難さについて検討した。
- ・研究協力者、研究協力機関と連携し、通常の学級での円滑な生活に資する取組に関する実践的検討の計画、準備を進めた。
- ・12月に第1回研究協議会を開催し、文献研究、資料収集の中間的報告を行うとともに、研究協力者、研究協力機関との連携による実践研究の計画・内容を報告、協議した。
- ・3月に第2回研究協議会を開催し、資料収集及び実践研究の経過報告を行い、今後の方向性も含めて協議した。

2. 平成23年度

- ・引き続き資料収集、実践研究を進めるとともに、年間を通して所内定例会を開催し、研究の進捗状況を確認し、研究内容を協議した。
- ・8月に第1回研究協議会を開催し、実践研究の経過及び成果を報告し合い協議した。また、研究報告書の内容について協議・検討した。
- ・全国難聴・言語障害学級及び通級指導教室実態調査から、通常の学級と通級指導教室の連携の実態について分析を進めた。
- ・言語障害のある子どもに必要な配慮事項について、通常の学級担任にとっての実施しやすさを調査し、分析を進めた。
- ・11月に第2回研究協議会を開催し、これまでの各取組について報告し合い、研究報告書におけるまとめ方について協議した。
- ・研究報告書を作成し、研究成果の普及を行う。